

龍源寺報

令和7年（2025年）正月号

臨濟宗・妙心寺派	住職	松原信樹
佛母寺住職	松原	樹
正福寺住職	松原	行樹
TEL	03-3451-1853	
FAX	03-3451-6094	

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

新年におもむ

龍源寺住職 松原信樹

仏教の教えは、「生老病死」という、生まれ出でて、老い、病を得て、亡くなる人生を「苦」というどうにもならないこととして受け入れていくことから出発する。そして、人生を「苦」として受け入れざるを得ない理由を、自分の生存に固執する「渴愛」の心とし、渴愛の心を断じ、解脱の涅槃の境地に到達するならば、苦を滅することができず、ただと仏教は主張する。実際、最古の仏教思想を伝えるものとされる『スッタニパーダ』によれば、「生まれたものどもは、死を通れる道がない。老いに達しては、死ぬ。実に生あるものどもの定めは、このとおりである」として死の不可避が説かれる。

ただ、このような仏教の悟りの境地が単なる言葉ではなく、現実の体験的なこととして、理解されるには、若干、問題が残っているように思う。つまり、どのようにして、私たちは、現実の世界という葛藤や矛盾に充ちた世界で、具体的な形として「苦」を受け入れられるかが問題である。

むしろ、渴愛の心を断ずるのではなく、生存への執着をとことん突きつめ、それを徹底してゆくにによってこそ、「苦」を乗り越える境地が開

かれうる、ということもまたあるのではないであろうか。渴愛の心を断ずるといった解脱や悟りでなく、むしろ反対に、死にさらされた人生の現実の分裂と対立、苦悩と葛藤を直指し、それを徹底して自ら引き受け、その中でもがき苦闘することを通して、人生を積極的に戦い抜いてこそ、自己の存在の本質と限界を知りえ、限りのある私の人生を肯定し、仏教という「苦」である死をも受け入れることが可能になるということもあるのではなからうか。

仏教が無常（＝ありとあらゆるものが移り変わって少しの間もとどまらない）を説くように、世の中の出来事は、そのときどきに大きく変わり、定めがなくあてにならない。また、これまでに伝承されてきた、様々な立派な教えや慣習も、それが自分に本当に納得できるものとならない限りは、自分を支える根拠にはならない。たとえ、打ち砕かれ、挫折しても、自分の生きがいや達成を願い、努力の結果を求めるとき、それは必ず「祈り」になる。

今年も仏教を通して、ささやかながら、現代に生きる私たち自身のために、「龍源寺報」を作成していきたいと思えます。その中で、皆さまとの時間をわずかながらでも共有できたら幸いです。未熟者ですが、本年も宜しくお願い申し上げます。

大般若会（新年の祈祷会）

一、一月四日（土曜日）午前十一時より

一、法話

・駐車場はありません。

南北線をご利用ください。

お願い

※龍源寺の周囲が再開発される中、龍源寺を地域の文化資源の一つとして捉え、先代から三代続く境内整備に力を注いで参ります。ご支援いただける個人・団体・法人の皆さまに改めてご協力を賜りたく、お願い申し上げます。未熟者ですが、宜しくお願い申し上げます。

龍源寺住職 松原信樹

至目黒

白金高輪
下車（2番出口）
徒歩約5分

明治通り
古川橋

地下鉄（南北線）

龍源寺

至麻布

龍源寺への交通の便（地下鉄）

● 都営三田線

● 2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり
（目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分）

龍源寺への交通の便（都バス）

● 田 87 渋谷駅ー田町駅 魚ラン坂下下車

● 都 06 渋谷駅ー新橋駅 古川橋下車

● 品 97 品川駅ー新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車

● 反 96 五反田駅ー品川駅ー六本木ヒルズ（循環）

魚ラン坂下・古川橋下車

● 東 98 東京駅丸の内南口ー目黒駅 魚ラン坂下下車

「水月堂」(納骨堂) 工事の様子

※水月堂とは、江戸期に龍源寺境内に実在したお堂の名称です。



水月堂正面



水月堂の側面



水月堂1F



水月堂2F



Instagram を始めました。アカウントは ryugenji.zen です。お寺の行事や工事の状況などを配信していきます。

柳 緑

新年明けましておめでとう
ございます。本年も宜しく
お願い申し上げます。毎年、

花 紅

元旦は朝から一時間ほど、
世界平和、無病息災を祈り、

龍源寺檀信徒先祖代々の供養のお経を
よみます。お経が終わり、食卓に着き
精進のお雑煮をいただき、近隣のお寺
に年頭のご挨拶にいきます。寺族はそ
の間、龍源寺に來られる和尚さんにご
挨拶をします。私が生まれてから、五
十三年毎年同じことを繰り返していま
す。▼母は、膝を患いながらも元気に暮
らしています。元旦は、千葉県の富津
市にある仏母寺で、大晦日の除夜の鐘
のお手伝いをしてから、龍源寺に戻り
ます。参拝の方々に、けんちゃん汁を毎
年振る舞うようです。家内の亜矢さん
は、仕事や娘の習い事の送迎に、日々
忙しくしています。私たちが子どもの
頃は、一人で外出していましたが、最
近は、色々な事件を耳にするので、一
人で外に出すのが心配なようです。娘
の瑞樹は、学校に元氣に通っています。

行事などを通して様々な経験をしたり、
家では教えられない多くの学びを得て
いる様で、有難く思います。先日、と
あるピアノのコンクールで入賞しまし
た。何に關しても、努力をすることの
大切さを教えていきたいと思ひます。▼
今、原稿を執筆しているのは、令和六
年十二月三日。納骨堂は、完成してい
ませんが、工事現場の足場が取れ、外
観をみる事ができます。工事状況な
どを、龍源寺のInstagramで、配信し
ていきたいと思ひます。宜しくお願ひ
申し上げます。▼令和六年十月に妙心寺
の住職向け機関誌「正法輪」にて、弥
勒菩薩（＝布袋）について執筆しまし
た。お正月に、七福神参りをされる方
も多いと思ひますので、寺報に同封さ
せていただきます。住職向けなので、
専門用語があつて、読みづらいかもし
れません。▼臨濟宗の修行僧が就寝前
よむ『中峰和尚座右銘』の中に、「人の
信ずるなしと雖も、人の誹りを受くる
ことなかれ」とあります。正しい知識
を学び、なかなか、先代、先々代住職

に追いつきませんが、少しでも近づけ
るように、精進していきたいと思ひま
す。龍源寺開創三五〇年の後の更な
る未来に向け、計画内容を見直しなが
ら、有用な整備を続ける所存でござい
ます。借地の整備などまだまだ、龍源
寺には、取り組むべき問題はあります。
皆様におかれましては、今後とも、物心
両面にわたりお支え下さいますよう、
心よりお願ひ申し上げます。▼以前、法
要後の御齋で配膳いただいたきながら、
コロナ禍で閉店した「秀」さんがお店
を再開いたしました。法要後の御齋に
ご利用ください。03-3787-0130
▼一月四日午前十一時より大般若会
（新年の祈祷会）を行います。書院では、
母の社中によるお抹茶の接待がありま
す。又、花園会館では三木先生による
仏像を彫る会の展覧会が開かれます。
禅の会（＝坐禅会）は休会です。古い
お札やお守りをお持ちいただけたら、
お焚き上げをいたします。どうぞ、皆
様ご家族でお参りください。寺族一同
お待ち申し上げます。（信樹）